

令和2年度学校自己評価システムシート (県立常盤高等学校) s 36

| | |
|--------|------------------------------------|
| 目指す学校像 | 豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストの養成 |
|--------|------------------------------------|

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点目標 | 1 主体的な学びを促進する魅力ある授業を追求し、授業改善を推進することで、学力の一層の向上を図る。 2 教職員一丸で社会の変化に対応できる教育活動を実践することで、心身ともにたくましく規律ある生徒を育成する。 3 看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観を育成するキャリア教育を推進する。 4 地域・保護者・関係機関との連携強化と効果的な情報発信により、愛され信頼される学校づくりを推進する。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 5名 |
| | 生徒 | 7名 |
| | 事務局(教職員) | 12名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在) | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 現状 ○授業や実習の大切さを第一に考えており、SPH事業の活用やシラバスに基づいた計画的指導を行っている。 課題 ○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で臨時休業になった授業や臨地実習の補填が必要である。 ○さらなる生徒の学力向上のためにアクティブラーニングやICTを活用した効果的な授業改善が必要である。 | ○看護師としての学力定着と技術向上を図る。 | ①授業及び実習計画の精選を行い、臨時休業による授業及び実習時間の確保をする。 ②アクティブラーニングやICT機器の活用等により授業力の向上を行う。 ③授業評価のために授業アンケートを行う。 ④実力テストの実施により、学習到達度を把握する。 | ①各教科・科目で限られた授業の中で、シラバスや目標に近づく授業実践ができたか。 ②③授業に対する興味関心及び理解度は向上したか。(授業アンケート) ④生徒の学習到達度は向上したか。(実力テスト) | 新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、ICT機器を活用した授業動画やオンライン授業などの授業改善が進んだ。 ①授業時間の確保に努め、評価基準を明確化したシラバスの目標に近づけるよう実施した。 ②プロジェクト学習合同プレゼンテーション(10月)の実施をはじめ、普段の授業からタブレットやプロジェクターなどのICTを活用し、授業アンケートでは97%が「授業に真剣に取り組めた」という結果を得た。 ③授業評価アンケートをgoogleFormを活用し、QRコードから各自のスマホで回答したところ、生徒からは好評であった。 ④コロナ禍でテストは1回しか実施できなかったが、制限のある中で工夫しながら学習に取り組む成果が得られた。 | A | ・今年度、コロナ禍によって試行的に進んだオンライン学習の常態化を目指し、より効果的な学習方法を模索する。 ・GIGAスクール構想に伴うICT機器活用を推進し、効率的な基礎学力の向上に取り組む。 ・授業評価アンケートをより活用し、その結果を受け止め、教員一人ひとりが授業改善に取り組む。 |
| 2 | 現状 ○多くの生徒は基本的な生活習慣が確立されており、落ち着いた学校生活を送っている。 ○小規模であるがゆえの生徒へのきめ細やかな指導ができています。 課題 ○学校全体として意思統一した指導体制をさらに充実させる必要がある。 ○将来の看護師として様々な場面に順応できる社会性を育てる具体策が必要である。 | ○生徒個人の心のケアに配慮しつつ、自律した心と態度を育てる。 | ①適切かつ積極的な声掛けにより生徒理解と指導体制を確立する。 ②生徒支援委員会をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部機関との連携により、個に応じた支援を行う。 ③少ない機会ではあるが、学校行事や部活動及び校外活動にメリハリをつけて積極性や協調性を深める。 | ①組織的・日常的に生活指導を実施し、生徒の行動が変容したか。 ②計画的・継続的な指導により、課題を抱えた生徒の生活状況は改善したか。 ③臨時休業のあった中で、精選した各種行事や部活動の実施ができたか。 | 臨時休校や新しい生活様式を意識しつつ、心のケアにも配慮しながら生徒指導に組織的に取り組んだ。 ①登下校指導や普段の声掛けにより、生徒指導の充実を図った。また、情報モラルに関する講演会、薬物乱用防止教室を実施することができ、自制意識が向上した。 ②各学年団や生徒支援委員会による情報共有を常に行い、迅速かつ組織的な対応を行った。 ③コロナ禍のため、体育祭、文化祭、球技大会等の各種行事の中止や変更をよぎなくされた。一方で実施できた行事に関しては生徒の自主的な運営により楽しむことができた。部活動も制限がある状態での活動であり残念な1年となった。 | B | ・一過的な指導ではなく継続的な生徒指導を行う。 ・生徒の様子や心のケアを注意深く観察し、組織的な指導体制を確立する。 ・学校行事は、前年踏襲ではなく、実施形態や内容を見直しながらより良いものを提案する。 |
| 3 | 現状 ○就職試験日程の早期化に伴い、丁寧に個に応じた指導を行っている。 ○看護師国家試験の合格率は高い水準を保っている。 課題 ○計画的・継続的な指導により、看護師国家試験の高い合格率を目指す。 ○生徒の多様な進路希望に応じた進路指導を行うことが必要である。 | ○個に応じた進路情報の提供と育てたい看護師像を追求する。 | ①各学年毎に進路の手引きを活用した進路ガイダンスを実施することで、低学年から意識向上を図る。 ②キャリアプロジェクトにてポートフォリオを活用し、将来の「ありたい像」を育てる。 ③柔軟な体制で病院説明会や進路講話、修了生懇談会等を行い、生徒の進路希望実現を支援する。 ④進路指導部と学年が連携し、看護師国家試験対策及び進学対策を組織的に行う。 | ①効果的な進路行事を提供することができたか。 ②キャリアポートフォリオを作成することができたか。 ③生徒の進路希望を実現できたか。 ④高い看護師国家試験合格率达到できたか。 ④進学希望者の進学が実現できたか。 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響と県内病院の採用試験の変更を考慮した進路情報の提供及び進路意識向上。 ①コロナの影響により、全体向けの進路行事は中止や変更を余儀なくされたが、進路の手引きを活用することで、個々の進路意識を高めた。 ②キャリアポートフォリオを作成することで、将来計画が明確化された。 ③今年度は、個別に面接指導などを行い就職希望者のほとんどが県内病院に内定することができた。現在は看護師国家試験全員合格に向けた指導を全力で行っている。 ④進学希望生徒向けに受験指導を行い、7名の進学が決定した。 | B | ・キャリアポートフォリオを活用し、生徒情報を共有することで自発的・能動的な行動を育成する。 ・キャリアポートフォリオを発展させることで次年度以降に導入されるキャリアパスポートに繋げていく。 ・高校生からの段階的な進路指導体制を整理し、早い段階から進路意識を養成する。 |
| 4 | 現状 ○本校に關係する連携病院や大学並びに保護者の協力が得られている。 ○県内各地から、看護師を目指す生徒が集まってきている。 課題 ○本校の強みや特色ある取組について積極的に発信する必要がある。 ○地域や保護者と連携し、よりよい情報交換を行うことで課題の発見や改善に努める。 | ○情報機器等の活用について環境や体制を整備し、保護者・地域・関係機関との連携強化を促進させる。 | ①教員集団がホームページ及びICTの利活用方法を身につけ、情報発信を可能にする。 ②公開授業や地域との交流を充実させつつ、外部との情報共有についても積極的に行う。 ③客観的な評価や課題解決のため保護者アンケートを行う。 ④ホームページの更新頻度やコンテンツの増加などによるアクセス数増加を促進する。 | ①志願者数は増加したか。 ②公開授業や地域との交流会を増加することができたか。 ③本校の現状と課題を把握し、改善策を考察することができたか。(保護者アンケート) ④ホームページのアクセス数は増加したか。 | 学校公開が難しい分、教職員の協力体制のもと、ホームページを活用推進でき、学校の感染対策や外部発信力を高めることができた。 ①従来とは形態を変えたが学校説明会(4回)、体験入学(1回)を実施し、志願倍率1.29倍(1月現在)となった。また、学校案内や学校紹介DVDをはじめ、のぼりやバックパネルなどの広報物を充実することができた。 ②コロナの影響により、従来事業(授業公開や地域との交流会など)は実施できなかった。 ③保護者アンケートの結果、本校への満足度91%の肯定的評価を得た。 ④HPの項目整理と常盤ブログの新設により、毎日コンテンツの更新を行ったため、アクセス数が昨年度比45%アップした。 | A | ・今年度のノウハウをさらに活用し、保護者・地域・関係機関との連携を強め行事等への参画意識を高める。 ・生徒の活躍を外部に情報発信することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに本校の魅力をアピールする。 |

| | | |
|-------------------------|--|--|
| 学 校 関 係 者 評 価 | | |
| 実 施 日 令 和 3 年 2 月 1 9 日 | | |

| | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における臨時休校の中でも、ICT活用の推進などの授業改善をたゆまずすすめていた点や生徒の学びの保障が実現できていたのは良かった。 ・休校の遅れを取り戻すために詰め込みの授業を行うのではなく、あくまでも生徒の意欲や主体性を重視した授業づくりに努力されていたことが散見された。また、そのことが生徒の学修の充実や満足度向上につながっている。 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校による在宅時間の増加や学校行事の中止や縮小によって、生徒の日常生活の乱れが懸念されたが、貴校のきめ細かい指導や継続的な取組によって大過なく生徒達が過ごしている様子が分かった。 ・特に生徒会の自主的な取組が心強いですが、それを指導している先生方の指導と生徒達の信頼があつてこそのものである。 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなかで、医療従事者の抱える過酷な状況と使命感について、生徒も考えることが多かった1年だったと思われる。 ・実習や国家試験対策など進路指導上の様々な課題を抱えながら、長期にわたる修了生の利殖状況の追跡や保護者に対する支援も視野に入れた取組を行っていることが評価できる。 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルスの感染対策の必要上、地域・保護者の皆さんとの交流が制限されてしまったことは致し方ないところがある。一方で地域や家庭のICT環境の整備や支援の必要は増しており、生徒と同時に地域・保護者の方たちへの働きかけはますます必要になってくる。 ・学校がそのためのプラットフォームになりながら、先生方の負担が増えない形で外部の専門職や支援者を活用しつつ進めていくことが求められると感じている。 | | |